

『セルフネグレクト』 をご存じですか??

『セルフネグレクト』は一般的に“自己放任”と呼ばれており、通常の生活を維持するために必要な行為を行う意欲や能力を喪失し、自己の健康・安全を損なっても周囲に助けを求めない状態を指します。

〈セルフネグレクトの例〉



不潔で悪臭のある身体



不衛生な住環境



社会からの孤立

このほか、
・生命を脅かす治療やケアの放置
・周囲の価値観から見て奇異に見える生活状況
・不適当な金銭、財産管理等々

セルフネグレクトはなぜ起こる??

内閣府の調査によると、セルフネグレクト状態にある人は高齢者だけでも推計1万人超とされていますが、これは氷山の一角であると考えられています。

セルフネグレクト状態に陥ってしまう原因は次のとおりで、誰にでも起こり得ると言われています。

〈セルフネグレクトに陥る原因〉



認知症、精神疾患
等による判断力、
認知力の低下



プライドが高い、
頑固



経済的困難

家族、
地域等
からの孤立



このほか、
・生きる意欲の喪失
・喪失感
・世間体・遠慮・気がね
・サービス利用に係る手
続きの難しさ 等々

支援の現場からセルフネグレクトを見つめる

上記より、特に認識・判断力が低下し、命に関わるリスクよりも自身の欲求を優先して必要な支援を頑なに拒否する方への関わりは非常に難しいように思います。家族であっても本人の強い拒否等に対応できず、離れて行ってしまうことも少なくありません。

支援が必要な状態であるにも関わらず、地域も介入が困難なため、社会から孤立し、孤独死に至るリスクが高まるという強い悪循環を招いてしまうのが現状です。

更に、同居の家族であれば、そのような状況を周囲に「ネグレクト（支援の放棄）」という虐待の一種として認識されてしまう可能性さえあります。

身近にありながらも難しい問題のひとつ…、一緒に考えてみましょう!!

セルフネグレクトは性質上、非常に難しい問題です。

重要なことは「意思決定の支援」、「緊急性の判断」、「強制的介入の必要性の判断」等を視野に、家族であれば一人で悩まず周囲や関係機関等に相談したり、地域であれば家族や関係機関等と連携したりしながら、問題の解決に向けて一緒に考えていくことが大切だと思います。

適切な制度や社会資源を活用することで、セルフネグレクト状態に置かれている方の様々なリスクを改善し、再び安全に地域での生活を続けることができるようになるかもしれません。